『方言文法全国地図』第6集
聞き手・第三者主体待遇表現
略図集

大西拓一郎

略図集　語形の記号化を統一した略図集です。関連項目の比較などでお役立ていただければ幸いです。

地図	原図	頁
聞き手主体		
書きますか―近所の知り合いに向かってやや丁寧に(A 場面)―	273	2
書きますか―土地の目上の人に向かって非常に丁寧に(B 場面)―	271	2
行きますか―土地の目上の人に向かって非常に丁寧に(B 場面)―	275・276	3
来ますか―土地の目上の人に向かって非常に丁寧に(B 場面)―	278・279	3
いますか―近所の知り合いに向かってやや丁寧に(A 場面)―	283・284	4
いますか―土地の目上の人に向かって非常に丁寧に(B 場面)―	281・282	4
聞き手(身内)主体		
いますか―自分の父親に―	285・286	5
第三者(身内)主体		
(自分の父親が)来ます―近所の知り合いに向かってやや丁寧に(A 場面)―	317・318	6
(自分の父親が)来ます―土地の目上の人に向かって非常に丁寧に(B 場面)―	315・316	6
第三者主体		
(先生は)行くのか―友達に―	295・296	7

付録　コンピュータで言語地図を描きたい人のための参考資料…… 8

2006

聞き手主体

（凡例の○は，その語形が地図に現れていることを意味する）

敬語動詞
- イラッシャル類
- イラッシャル類＋丁寧
- オコシ類
- オコシ類＋丁寧
- オイデナサル・オイデンサル・オイデニナル類
- オイデナサル・オイデンサル・オイデニナル類＋丁寧
- オイデ・オイデル類
- オイデ・オイデル類＋丁寧
- オジャル・オデル類
- オジャル・オデル類＋丁寧
- オサイジャル類，オサイジャル類＋丁寧
- ゴザル類
- ゴザル類＋丁寧
- ミエル類，ミエル類＋丁寧
- ワス類
- メンセーン類
- メーン類
- エーン類
- ミャ・ミュ類
- モールン類
- オールン・ワールン類

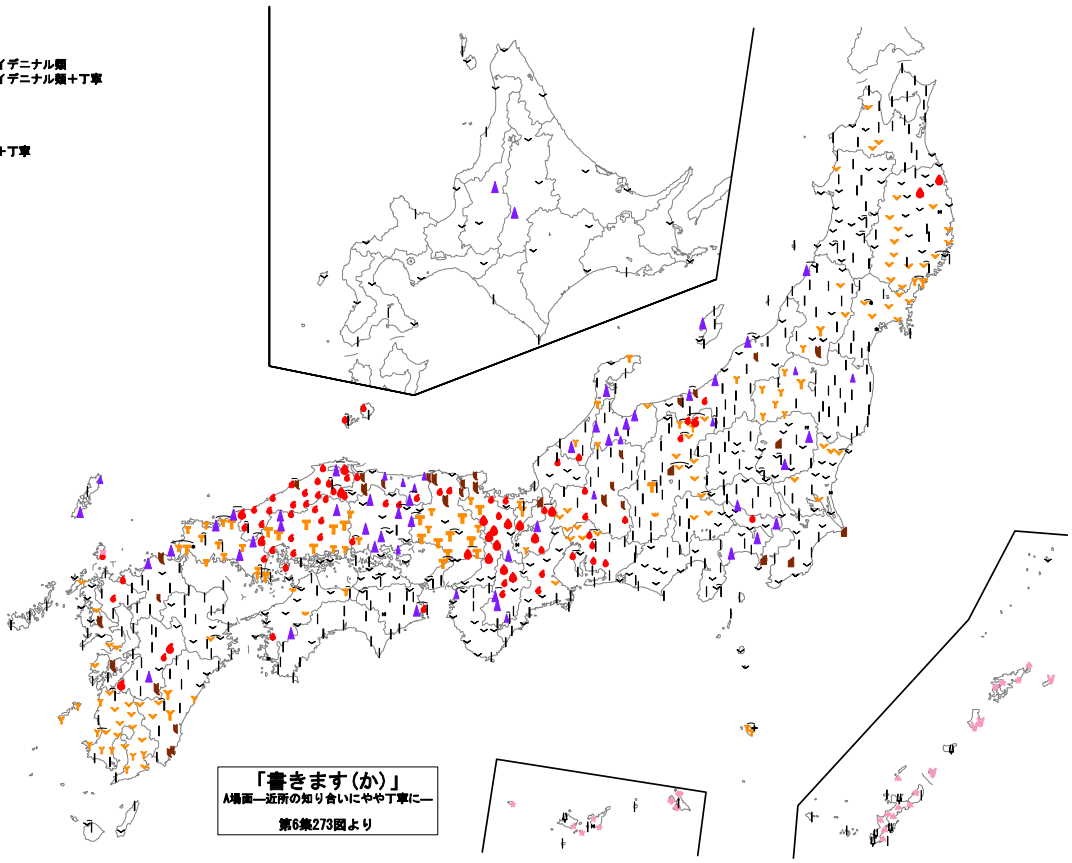
敬語動詞（謙譲）
- マイル類，マイル類＋丁寧
- メイアゲ類

一般動詞
- ○レル・ラレル類
- ○レル・ラレル類＋丁寧
- ○ナサル類
- ○ナサル類＋丁寧
- ○サル・ハル・シャル類
- ○サル・ハル・シャル類＋丁寧
- オ～ニナル類
- ○オ～ニナル類＋丁寧
- ○ナル類
- ○ナル類＋丁寧
- ○テヤ類
- ○テヤ類＋丁寧
- ○ヤル・アル類
- ○ヤル・アル類＋丁寧
- ○ヤンス・ヤス類
- ○オ～ル類
- オ～ル類＋丁寧
- ○ゴザル類
- ゴザル類＋丁寧
- イタシヤル類
- ○ミセーン類
- ○エーン類
- ○マイ類
- ○ミャ・ミュ類
- ○モールン類
- ○オールン・ワールン類

非算敬・丁寧
- ○マス・デス・デゴザイマス等
- ○イタス類
- ○ヤビン類

- ○非算敬・非丁寧

- ○その他
- ○無回答



敬語動詞
- イラッシャル類
- イラッシャル類＋丁寧
- オコシ類
- オコシ類＋丁寧
- オイデナサル・オイデンサル・オイデニナル類
- オイデナサル・オイデンサル・オイデニナル類＋丁寧
- オイデ・オイデル類
- オイデ・オイデル類＋丁寧
- オジャル・オデル類
- オジャル・オデル類＋丁寧
- オサイジャル類，オサイジャル類＋丁寧
- ゴザル類
- ゴザル類＋丁寧
- ミエル類，ミエル類＋丁寧
- ワス類
- メンセーン類
- メーン類
- エーン類
- ミャ・ミュ類
- モールン類
- オールン・ワールン類

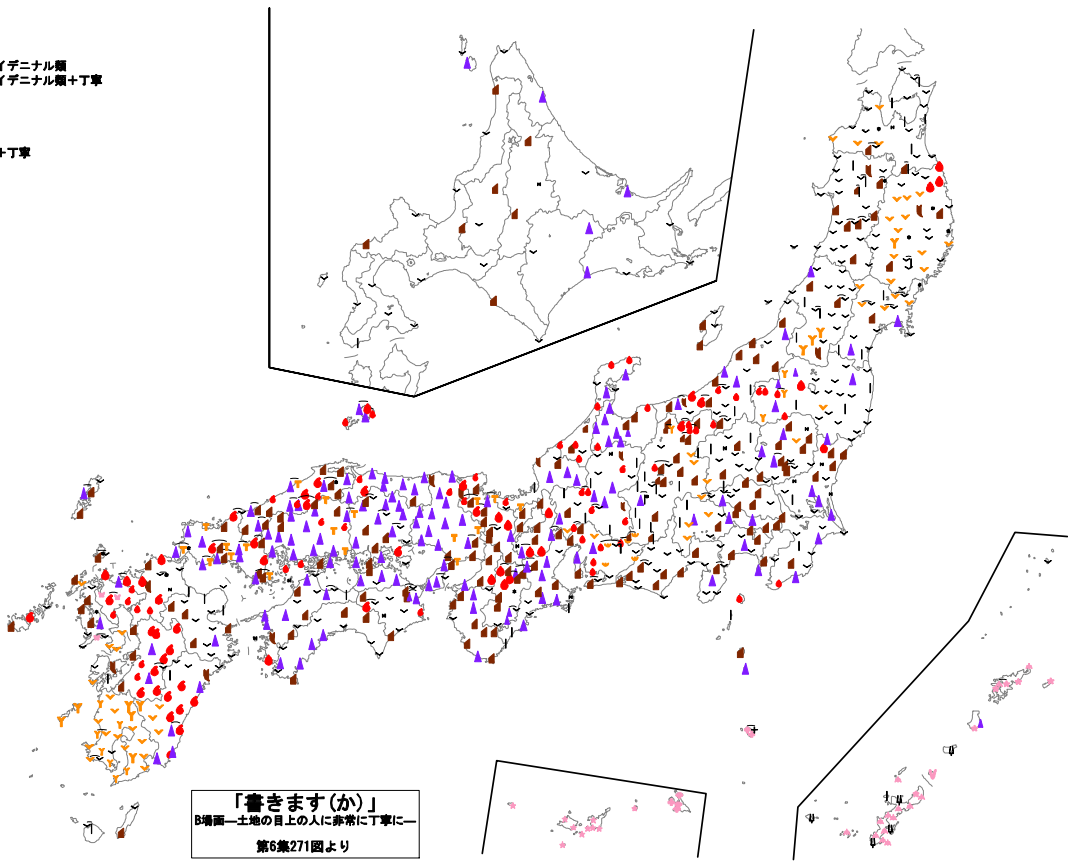
敬語動詞（謙譲）
- マイル類，マイル類＋丁寧
- メイアゲ類

一般動詞
- ○レル・ラレル類
- ○レル・ラレル類＋丁寧
- ○ナサル類
- ○ナサル類＋丁寧
- ○サル・ハル・シャル類
- ○サル・ハル・シャル類＋丁寧
- ○オ～ニナル類
- ○オ～ニナル類＋丁寧
- ○ナル類
- ○ナル類＋丁寧
- ○テヤ類
- テヤ類＋丁寧
- ○ヤル・アル類
- ○ヤル・アル類＋丁寧
- ○ヤンス・ヤス類
- ○オ～ル類
- オ～ル類＋丁寧
- ○ゴザル類
- ゴザル類＋丁寧
- ○イタシヤル類
- ○ミセーン類
- ○エーン類
- ○マイ類
- ○ミャ・ミュ類
- ○モールン類
- ○オールン・ワールン類

非算敬・丁寧
- ○マス・デス・デゴザイマス等
- ○イタス類
- ○ヤビン類

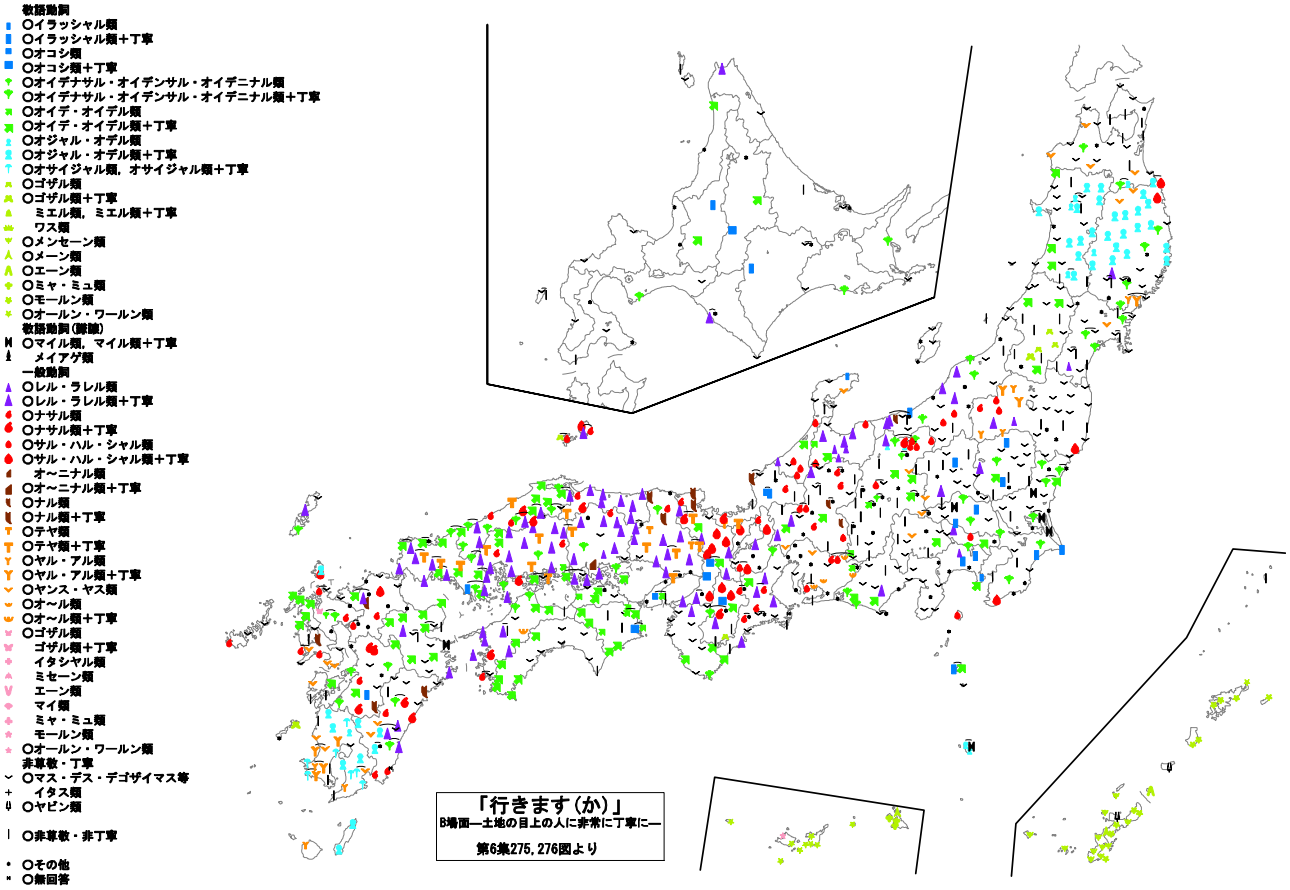
- ○非算敬・非丁寧

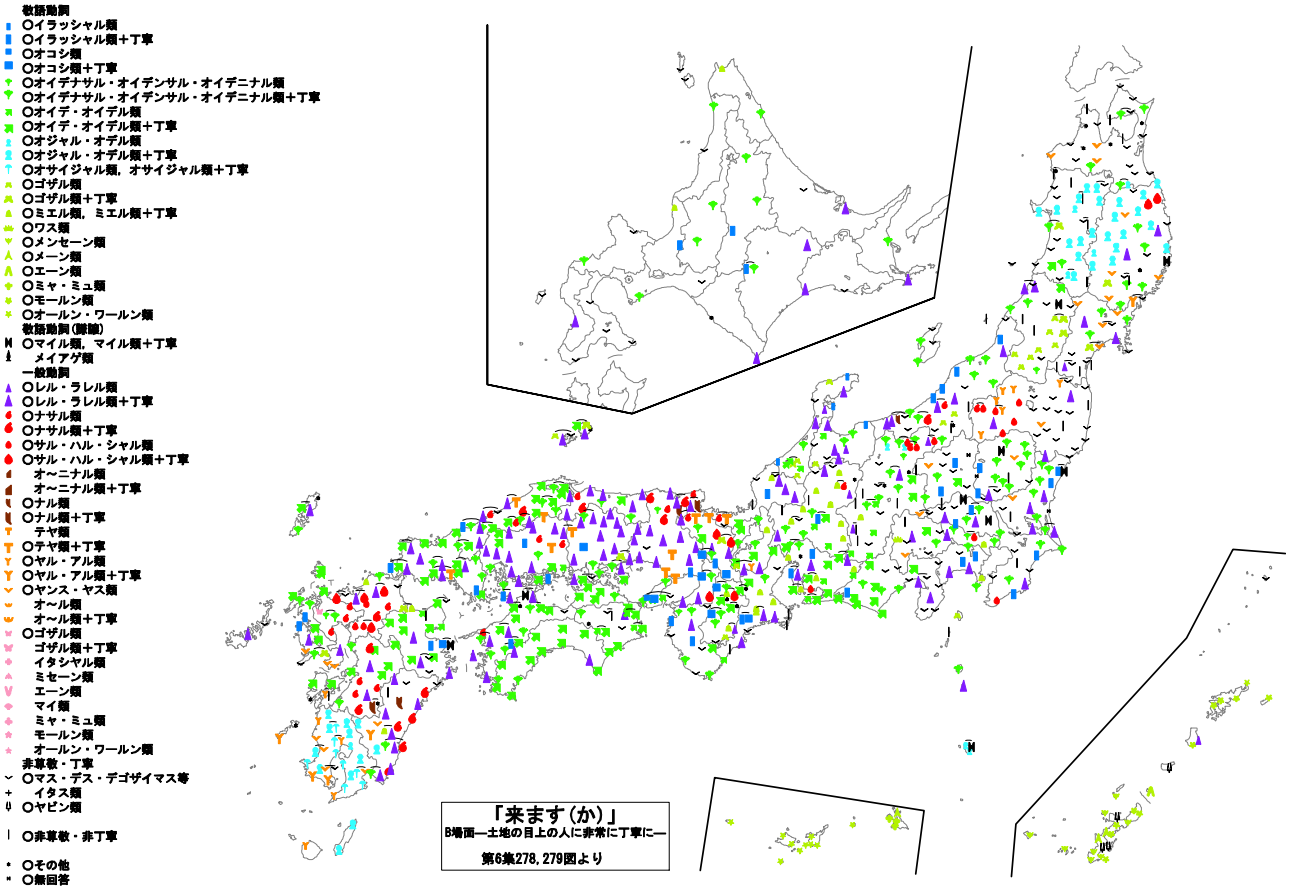
- ○その他
- ○無回答



聞き手主体

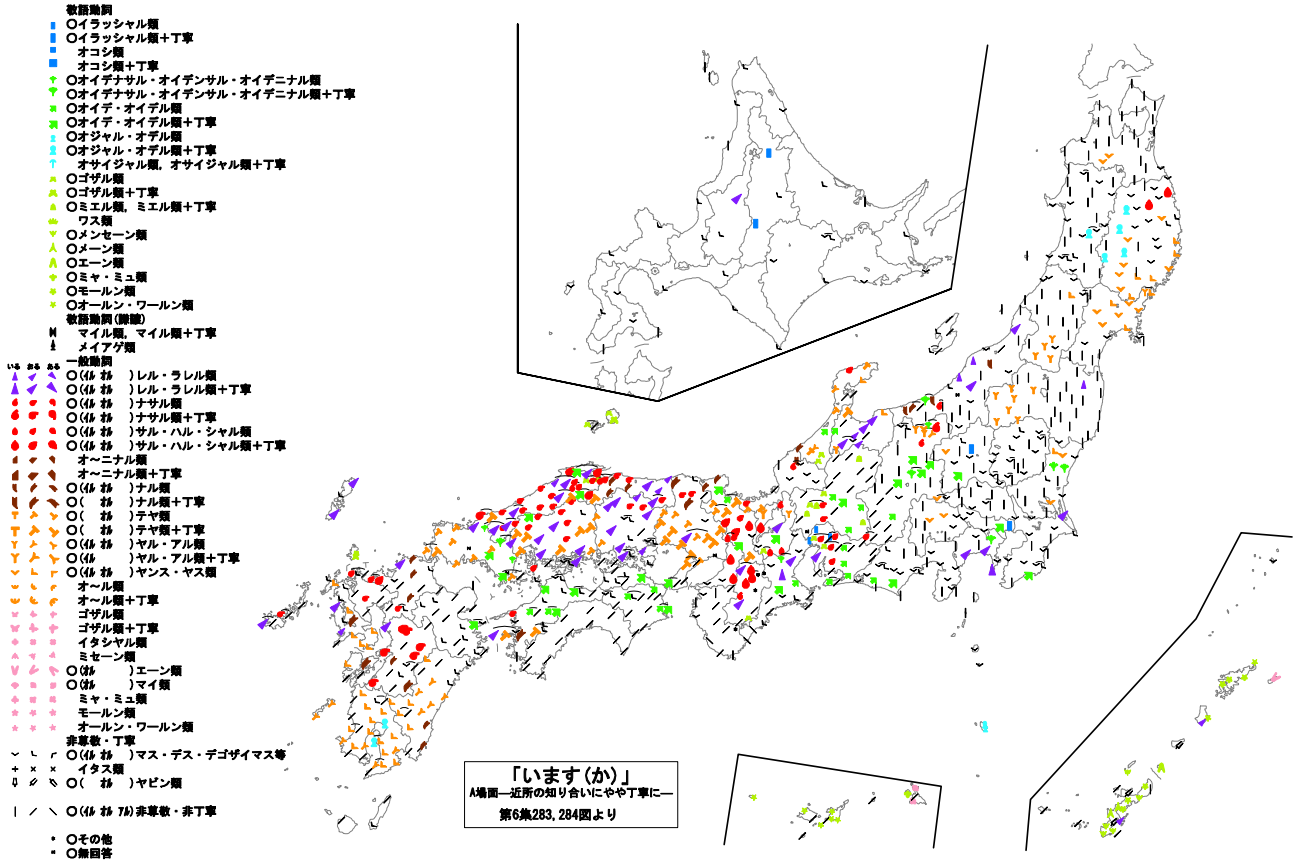
（凡例の○は，その語形が地図に現れていることを意味する）

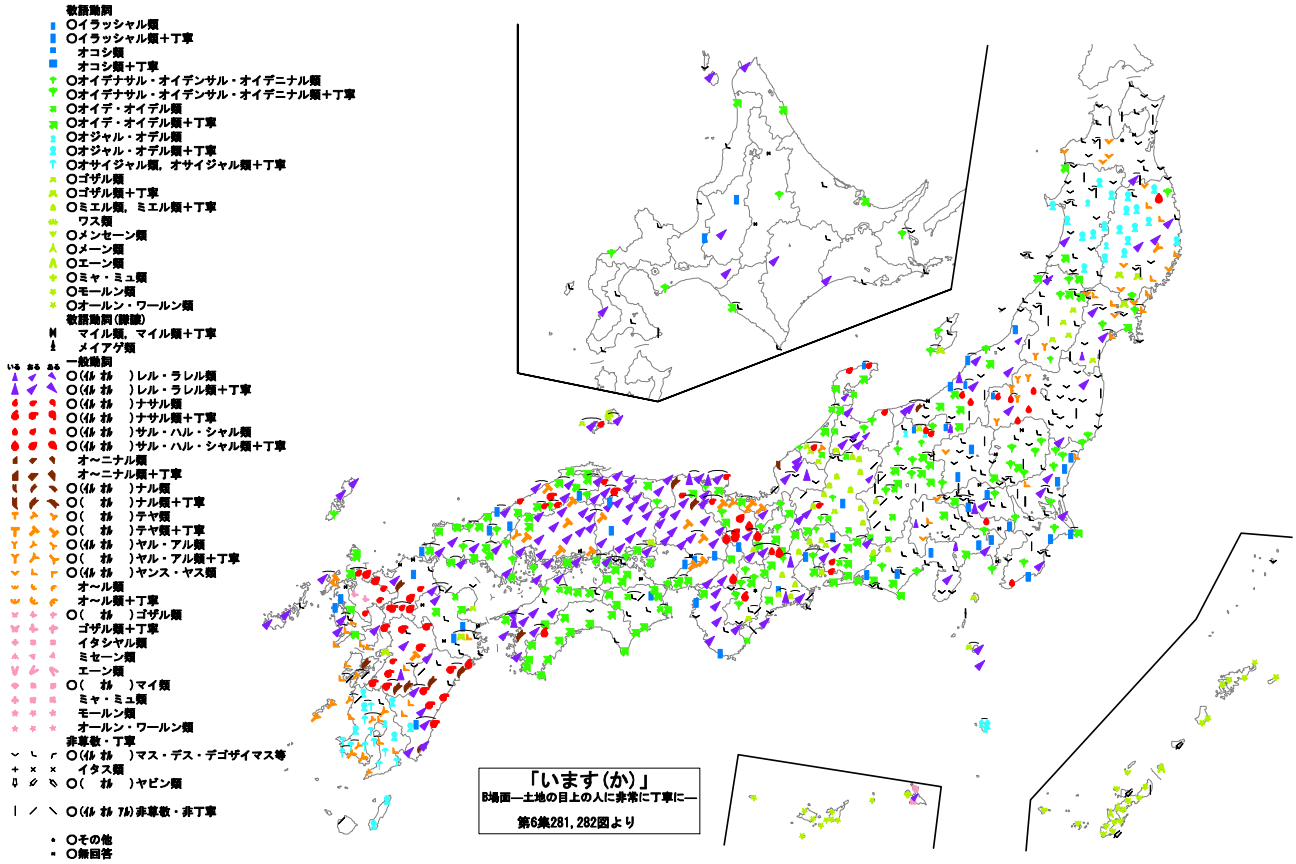




聞き手主体

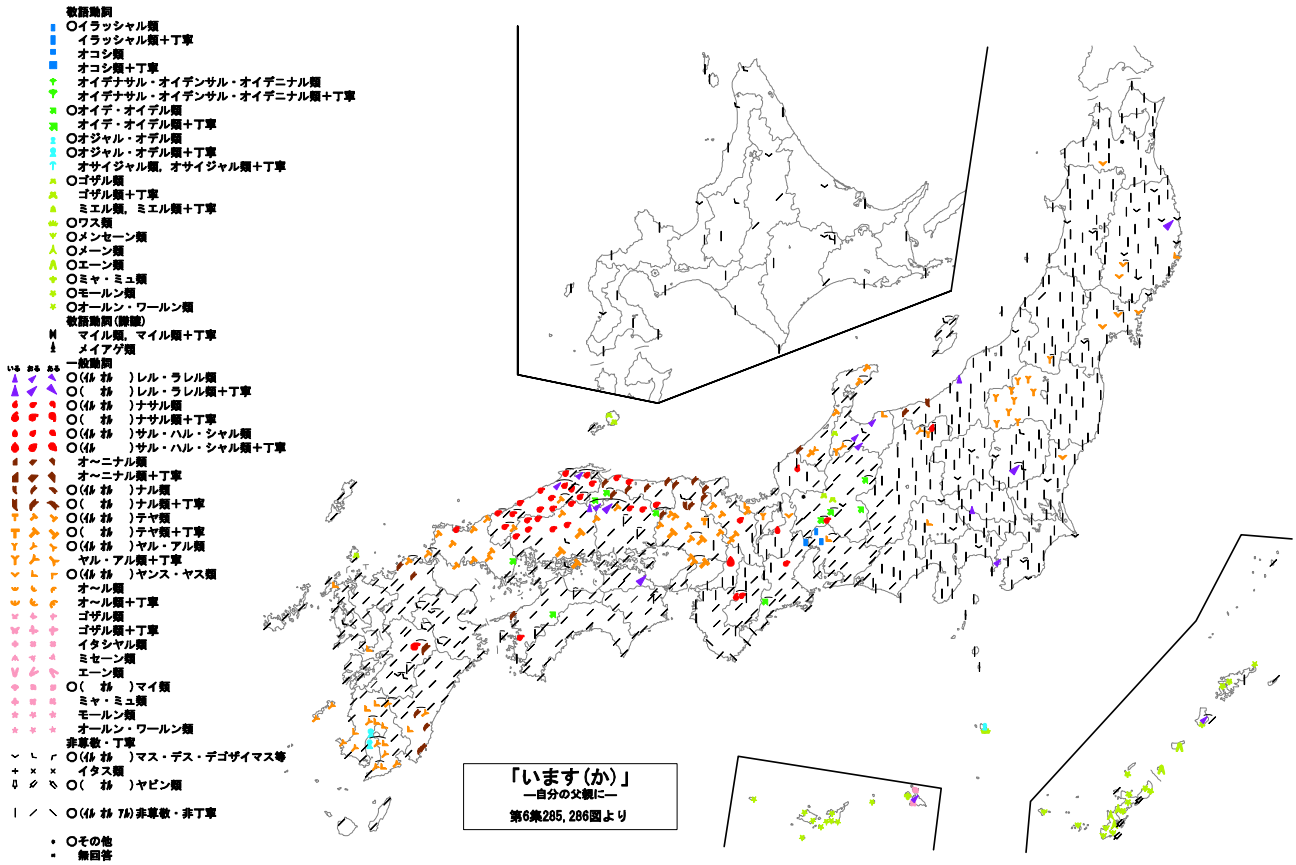
（凡例の○は，その語形が地図に現れていることを意味する）





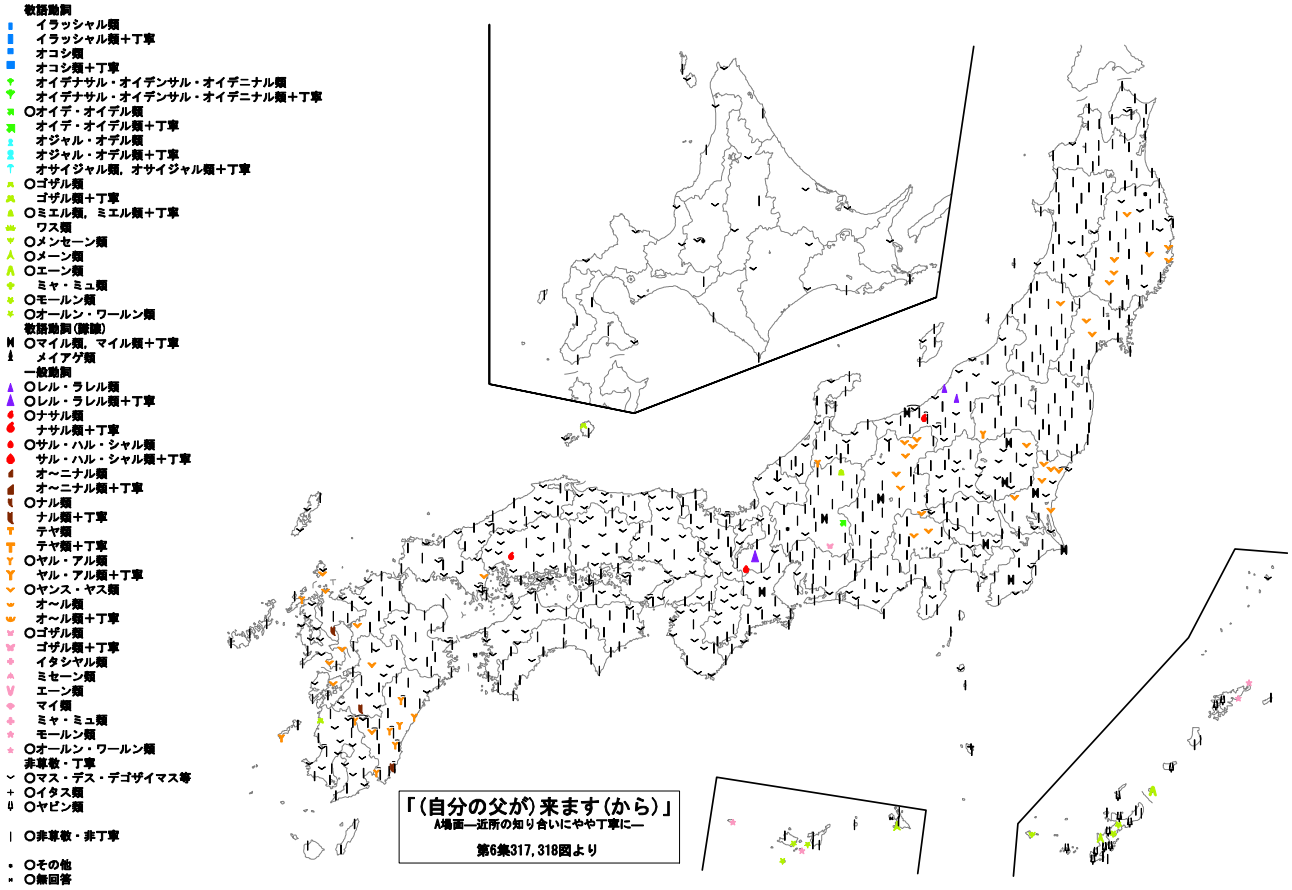
聞き手（身内）主体

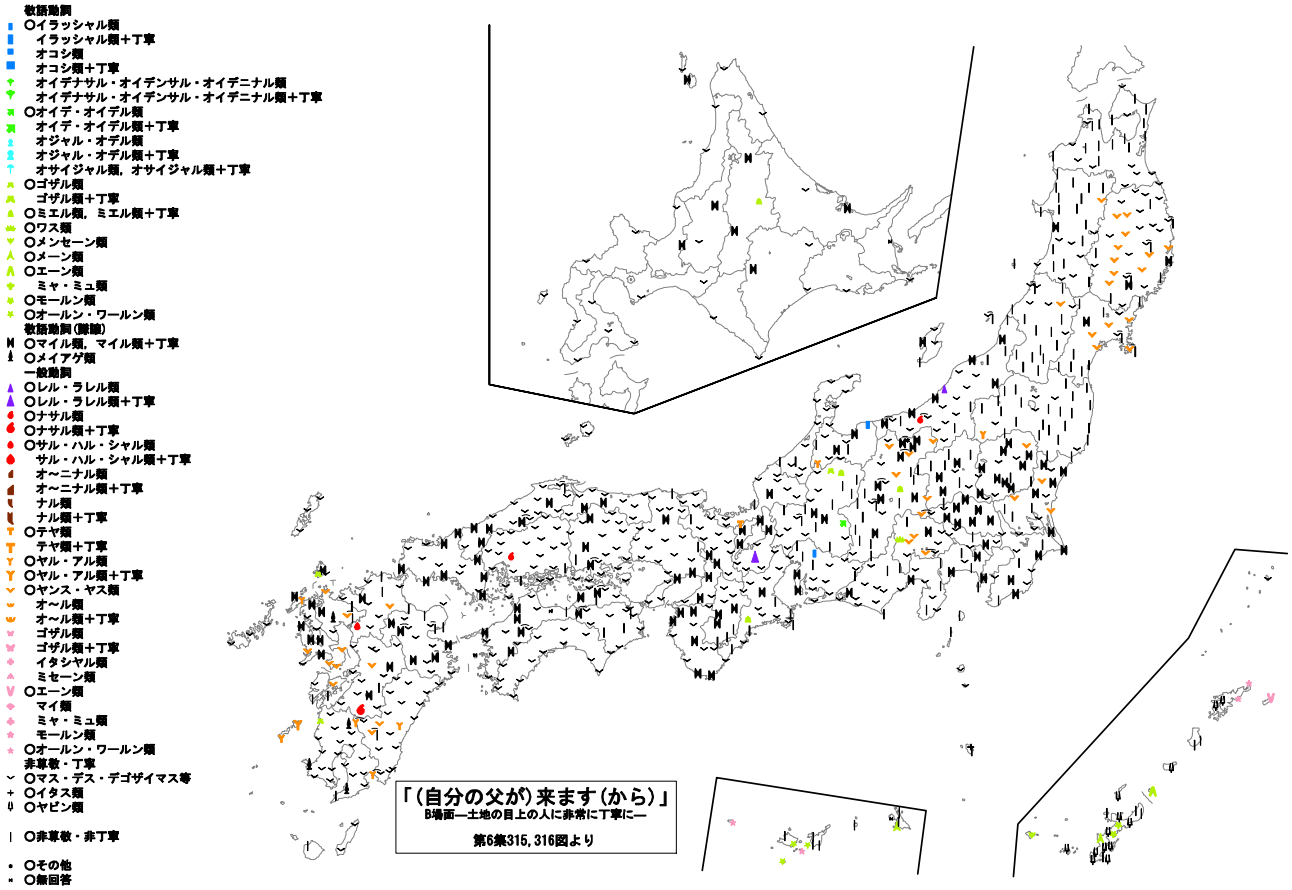
（凡例の○は，その語形が地図に現れていることを意味する）



第三者（身内）主体

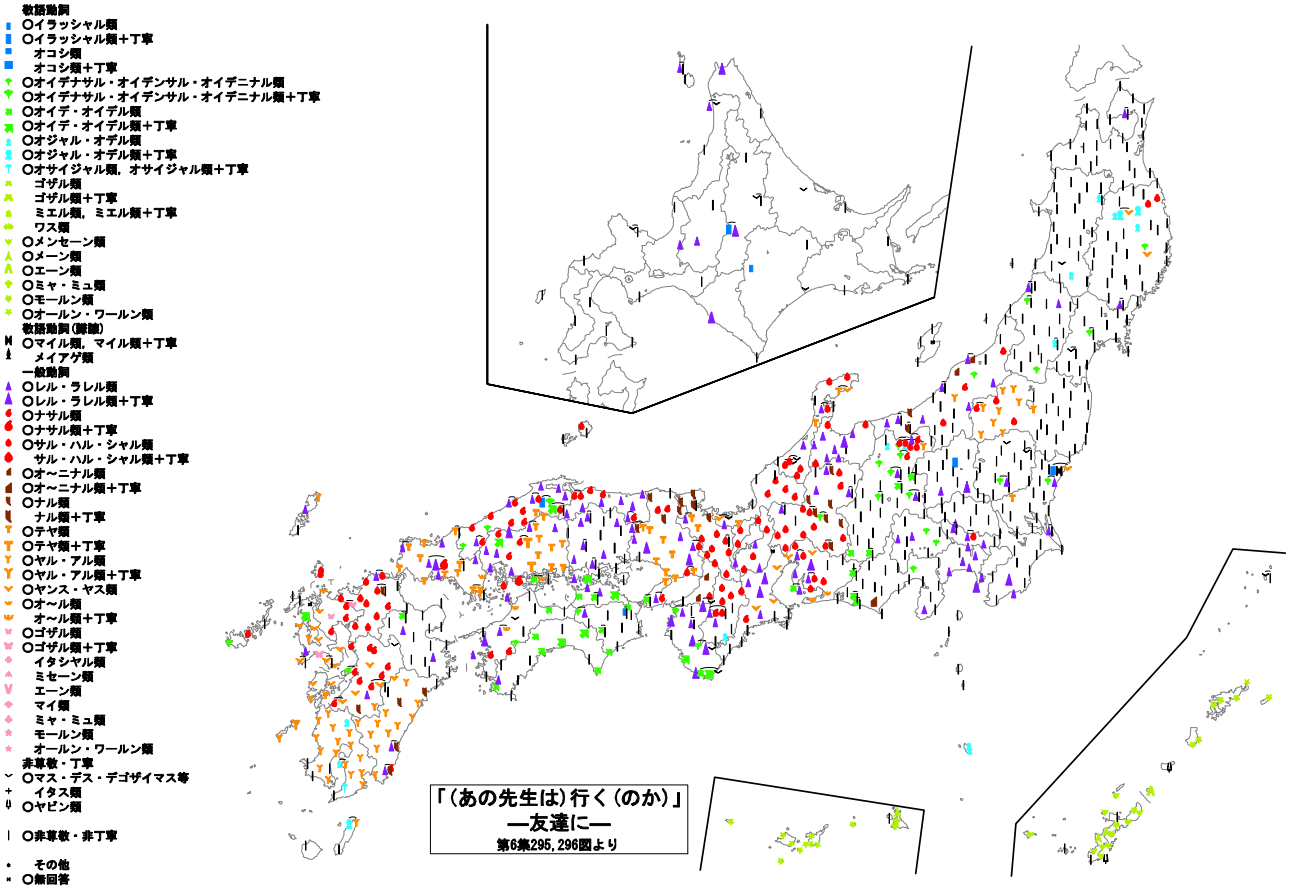
（凡例の○は，その語形が地図に現れていることを意味する）





第三者主体

（凡例の○は，その語形が地図に現れていることを意味する）



コンピュータで言語地図を描きたい人のための参考資料

言語地図

『方言文法全国地図』(GAJ)は，第5集からコンピュータで地図を作成している。GAJのコンピュータ作図においては，adobe社のIllustrator(イラストレーター)という汎用のコンピュータグラフィック(CG)ソフトに，研究所で開発したプラグイン(ソフト本体に機能を追加するプログラム)を組み込むことで実行している。Illustratorでは，汎用性のある様々な形式の画像ファイルに出力が可能であり，作成した地図画像ファイルを論文などの印刷物に活用する際にも利便性が高い。本リーフレットに収める地図や2006年度国立国語研究所公開研究発表会で用いたスライドのコンテンツやポスターもIllustratorで作成されたものが多い。また，『月刊言語』12月号(2006年)は，GAJを題材にした特集を組んでいるが，そこに掲載された言語地図もそのほとんどが，後述するGAJの公開データを利用しながら，上記システムで作成されている。利用方法に関しては，『日本語学』2002年9月号掲載の大西拓一郎「言語地図作成の電算化」に記している。この文献ならびにシステムの仕様書，プラグインファイル，白地図ファイル，記号ファイルは，次のサイトからダウンロードできる。

http://www2.kokken.go.jp/henka1/dp/gaj_dp_i/gaj_lms.htm

また，この文献の抜粋版と略図用の白地図・記号ファイルは，次のサイトからダウンロードできる。

http://www2.kokken.go.jp/~takoni/map_archives/map_archives_index_J.htm

なお，研究所で開発し，公開しているプラグインは，Illustratorのバージョン8～10までしか対応していない。上位バージョンに対応できるようつとめているところであるが，現在市販されているバージョンであるCSやCS2では作動しないので注意してほしい。

GAJで利用した方法以外にも，公開されている言語地図作成プログラムがある。福嶋秩子氏により開発されたSEALはその代表である。次のサイトで説明がなされ，SEAL本体のダウンロードもできる。

http://www.nicol.ac.jp/~fukusima/inet/index.html

現時点(2006年)の一般的なコンピュータ環境で作動する，言語地図作成に目的を特化した日本語対応のプログラムは，おそらくSEALのみだと思われる。

その他，エクセルやファイルメーカーといった汎用ソフトを利用する方法もある。富山大学人文学部日本語学研究室による『富山県言語動態地図』(2001年)や岸江信介・中井精一・鳥谷善史氏による『大阪府言語地図』(2001年)，仙波光明・岸江信介・石田祐子氏による『徳島県言語地図』(2002年)がそのような方法で作成された言語地図集である。上記『日本語学』に掲載の大西論文にそれらの解説文献も掲載しているの参照されるとよいだろう。

GAJの公開データ

GAJのデータは次のサイト内で公開している。必要なページにはリンクをたどって行ってほしい。

http://www.kokken.go.jp/hogen

GAJの資料データは，各集ごとに一つのファイルにまとめ，テキストファイル形式で公開している。それぞれのファイルには，1地点の1回答を1行で扱いながら，タブ区切りで以下のデータを収録している。タブ区切りなので，表計算やデータベースのソフトに読み込ませるのも容易なはずである。なお，ファイルは適宜更新しているので注意してほしい(ファイル名に更新日を反映させている)。

地図集　地図番号　質問番号　地点番号　地点コード　回答語形　注記コード　文章による注記　見出しコード　見出し　音声内容コード　音声内容

その他，第 5 集に関しては，印刷のもとになった Illustrator 形式のファイルと地図作成に利用したデータファイルも公開している。環境が整っていて，Illustrator での地図作成を試してみたい場合は，こちらも参考になるだろう。

GIS

地理情報システム(GIS)を用いると，言語地図の作成だけではなく，標高や人口密度といった言語外情報と言語情報を地図の形で照合することができる。2006 年 11 月に岡山で開催された日本方言研究会第 83 回研究発表会におけるシンポジウム「『方言文法全国地図』の完結をめぐって」や 2006 年度国立国語研究所公開研究発表会におけるシンポジウム・ポスター発表を参照してほしい。

市販の GIS ソフトで研究者によく使われるのは,ESRI 社の ArcGIS と informatix 社の SIS である(もっとも方言研究者による活用例は，まだ非常に少ない)。

ArcGIS については，次のサイトを参照のこと。

http://www.esrij.com/products/arcgis/index.shtml

SIS については，次のサイトを参照のこと。

http://www.informatix.co.jp/sis/index.html

これら市販のソフトは，高い汎用性を持っており，地理的分析という研究面のみならず，ライフライン管理や出店計画といった実務面までもカバーできるようになっている。その分，アカデミック価格は設定されているものの，日常的感覚からすると高価であることは否めない。また，たとえ購入するにしても，代理店等の経由が必要で，街のパソコンショップ等では売られていない。さらに，ハード面でもそれなりのスペックが求められる。

これらに対し，フリーもしくは安価(数千円程度)に入手でき，解説書も市販されていることから初級者にも比較的利用しやすい GIS ソフトとして，埼玉大学教育学部の谷謙二氏が開発された MANDARA がある。次のサイトを参照。

http://www5c.biglobe.ne.jp/~mandara/

MANDARA を方言の分布研究に使う具体的な方法は，中井精一氏編(2005 年)の『社会言語学の調査と研究の技法』(おうふう)に記されており，参考になる。また，方言研究ではないが，地理学のテキストとして書かれた後藤真太郎・谷謙二氏らによる『MANDARA と EXCEL による市民のための GIS 講座』(2004 年，古今書院)もあわせて読まれるとよいだろう。大西も『シリーズ方言学 4 方言学の技法』(岩波書店)に MANDARA 用のスクリプト例を挙げた原稿を出しているので，出版をお待ちいただきたい。

なお，GIS では経度緯度で位置を指定するが，GAJ の各地点の経度緯度データは次のサイトから得られる。

http://www2.kokken.go.jp/~takoni/GISME/GISME.htm

MANDARA にしても上記のような市販の GIS ソフトにしても，日常的によく使われているであろうワープロソフトや表計算ソフトとは，かなり使い勝手が異なる。パソコンのことはもちろん，地理学や地図に関する基本的な知識は，ある程度要求される。また，GIS の世界に対するある種の慣れも必要だ。時には，試行錯誤もあるだろう。しかし，実際に使ってみれば，思ったほどハードルは高くないはずだ。

GIS を利用すれば，今まで目にしたことがないような方言分布の景観が間違いなく広がる。ぜひ MANDARA あたりからチャレンジされることを，特に若い人たちにおすすめしたい。